

郡山市

革新懇 ニュース

238

発行：郡山市革新懇事務室 Mail: ugp25200@nifty.com



337名鑑賞

「伊藤千代子」の上映運動を取り組んで

郡山上映実行委員会事務局長 大滝史郎

皆さん、この映画をご覧いただいたでしょうか。

5月19日(木)の夜、21日(土)の午前と午後、計3回上映し、観客は337名でした。当日になって都合がつかなくなった方もおいででしょうが、上映運動自体にカンパしてくれた方も相当数いらっしゃいました。厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

この映画は全国の支援者の手で製作資金のすべてを生み出すという戦後の民主的映画運動の原点に立つ手法で製作され、この4月から全国で上映されています。日本国民救済会郡山支部では、昨年末にこうした動きを知り上映債権に応募し、次いで郡山市内の団体や個人に呼びかけて上映実行委員会を設立し、準備をしてきました。

伊藤千代子は1928年3月15日、治安維持法により検挙され激しい拷問を受けましたが、屈せず、獄中のリーダーとして侵略戦争に反対し、主権在民とジェンダー平等の社会を目指して志を貫きとおしました。そして、特高監視のもとで満足な治療も受けられず肺炎を併発し、誰にも看取られることなく24歳の短い生涯を閉じました。

いま、再び日本は、戦争国家への道を突き進むようにしているような状況にあるからこそ、自由にものを言えない時代に戦争反対、貧困のない社会を求めてたまたかた千代子の生きざまは、私たちに様々な感動を与えました。

実行委員会は5月30日、収支決算と映画の感想や今後の課題などを話し合っって解散しました。以下はそのあらましです。

- ・ 余剰金は今後の平和・民主運動に活用する。
- ・ 実行委員長のあいさつは長かった。逆によかったと感じられた方も。
- ・ 第1回目、映像設備の操作がうまくいかず、はらはらした。映写技師を主催者団体がやるというのではなく市が技術者を配置すべきではないか。
- ・ 凄惨な拷問のシーンで見えられないと途中で帰られた方もいた。
- ・ いざという時には男はダメだ、変節してしまう。女性・母は強よし。
- ・ 日東紡でもかつて女性労働者のたたかいがあった、弾圧された。そういう歴史の掘り起こしも必要ではないか。
- ・ 時宜を得た映画だった。とても感動した。繰り返し観たいと思う。
- ・ 医療生協では事前にワタナベ・コウさんの漫画を回し読みしながら事前学習をしていた。
- ・ 若い人にどう切り込むか。どの団体も後継者育成に悩んでいる。
- ・ 駐車場が近くにないので困った人が多かったのではないか。文化センターの主催者用の駐車場は活用できないのか。
- ・ 500人の定員の会場にしてはスクリーンがあまりにも小さい。声が聞こえにくかった。音響効果に配慮された市の施設がほしい。
- ・ 「音楽都市こおりやま」と標榜しながら、音楽堂もない。郡山市には、文化面で貧弱な施設しかないことが浮き彫りになった。機会をとらえて市に要望していきたい。



メディアは自民党を批判しない。だから、自民党

の一票独裁が続いている。消費税を5%に下げれば社会保障費を3割削減すると恫喝、軍事費は5年かけて2倍の11兆円にする、そして参院選後は9条を壊す改憲に取り組むという。

6月定例会議会では自民党派提出の「防衛力の抜本的強化を求める意見書」が可決された。生業訴訟の最高裁判決は防潮堤を設置しても事故は起きたらどうから、国の責任は問えないという。

理不尽極まりない！
(遠藤)

会員募集中

お申し込みは
ホームページより

